

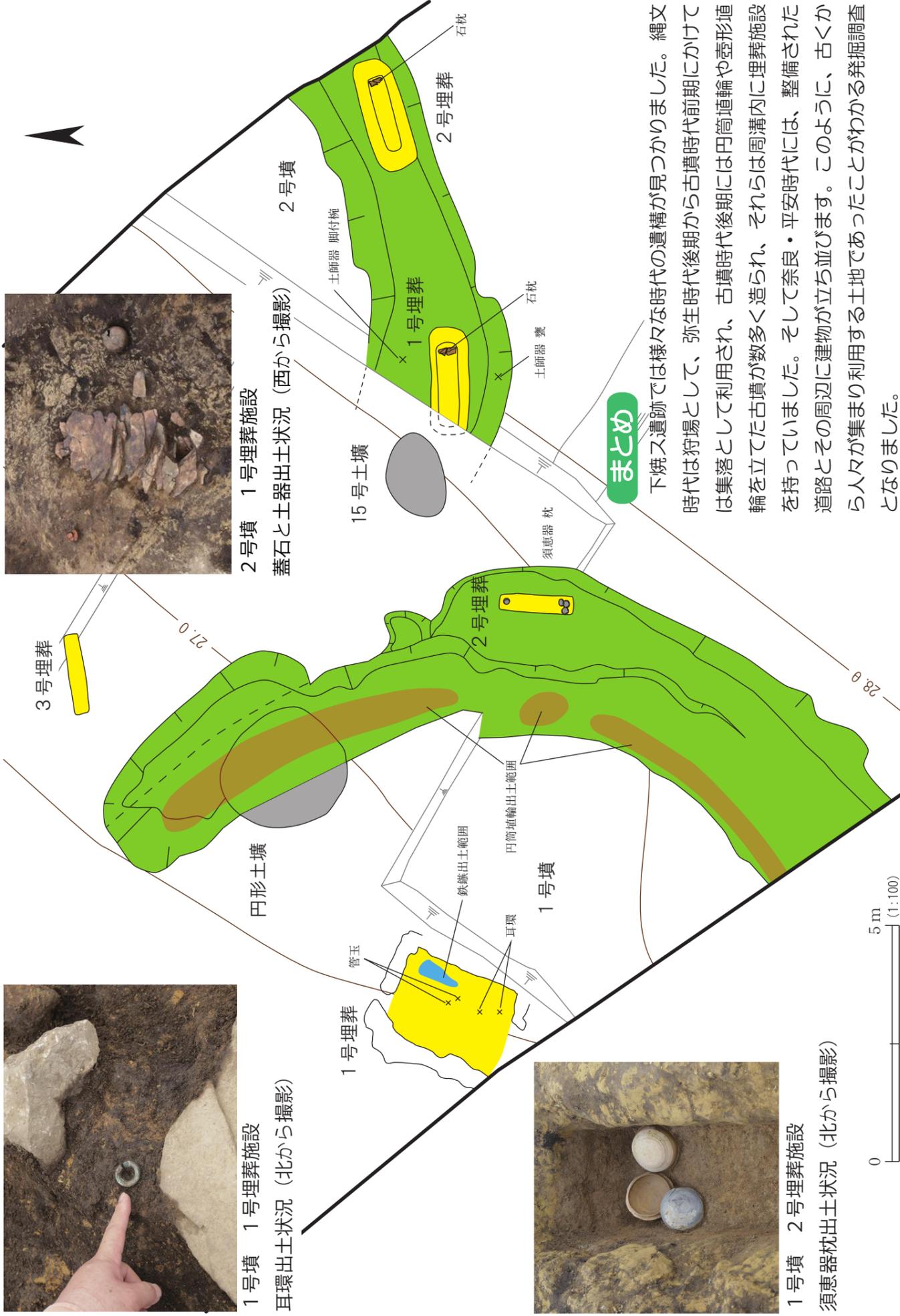
平成30年度 下焼ス遺跡 発掘調査 現地説明会

平成30年6月9日(土)
倉吉市教育委員会 文化財課

はじめに

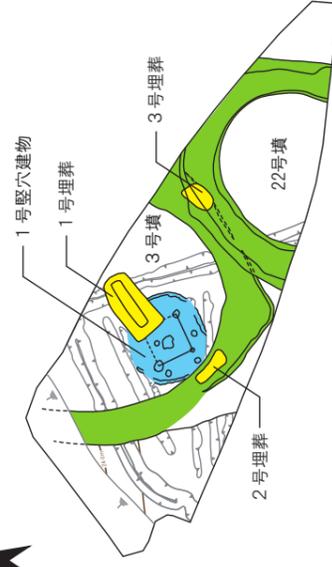
しもやけす
下焼ス遺跡は、県道倉吉東伯線の改良工事に伴い、倉吉市教育委員会が発掘調査を実施しています。平成28年12月から実施した南地区の調査では、奈良時代から平安時代にかけて使われたと考えられる道路遺構を確認しています。平成30年3月からは北地区の調査をしており、現在までの調査で、縄文時代から平安時代までの遺構や遺物が確認できました。主な遺構として、弥生時代後期や古墳時代の竪穴建物跡4棟、古墳2基などが見つっています。

当遺跡は、倉吉市街地から北西に約7km離れた倉吉市津原字下焼スにあります。なだらかな丘陵の北端に位置し、丘陵の北側には日本海にそそぐ由良川を中心に低湿地が広がっています。当遺跡周辺にある遺跡の多くは弥生時代から古墳時代にかけてのもので、丘陵の上には小さな円墳が多く見られます。



まとめ

下焼ス遺跡では様々な時代の遺構が見つかりました。縄文時代は狩場として、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては集落として利用され、古墳時代後期には円筒埴輪や壺形埴輪を立てた古墳が数多く造られ、それらは周溝内に埋葬施設を持っていました。そして奈良・平安時代には、整備された道路とその周辺に建物立ち並びます。このように、古くから人々が集まり利用する土地であったことがわかる発掘調査となりました。



西焼入遺跡



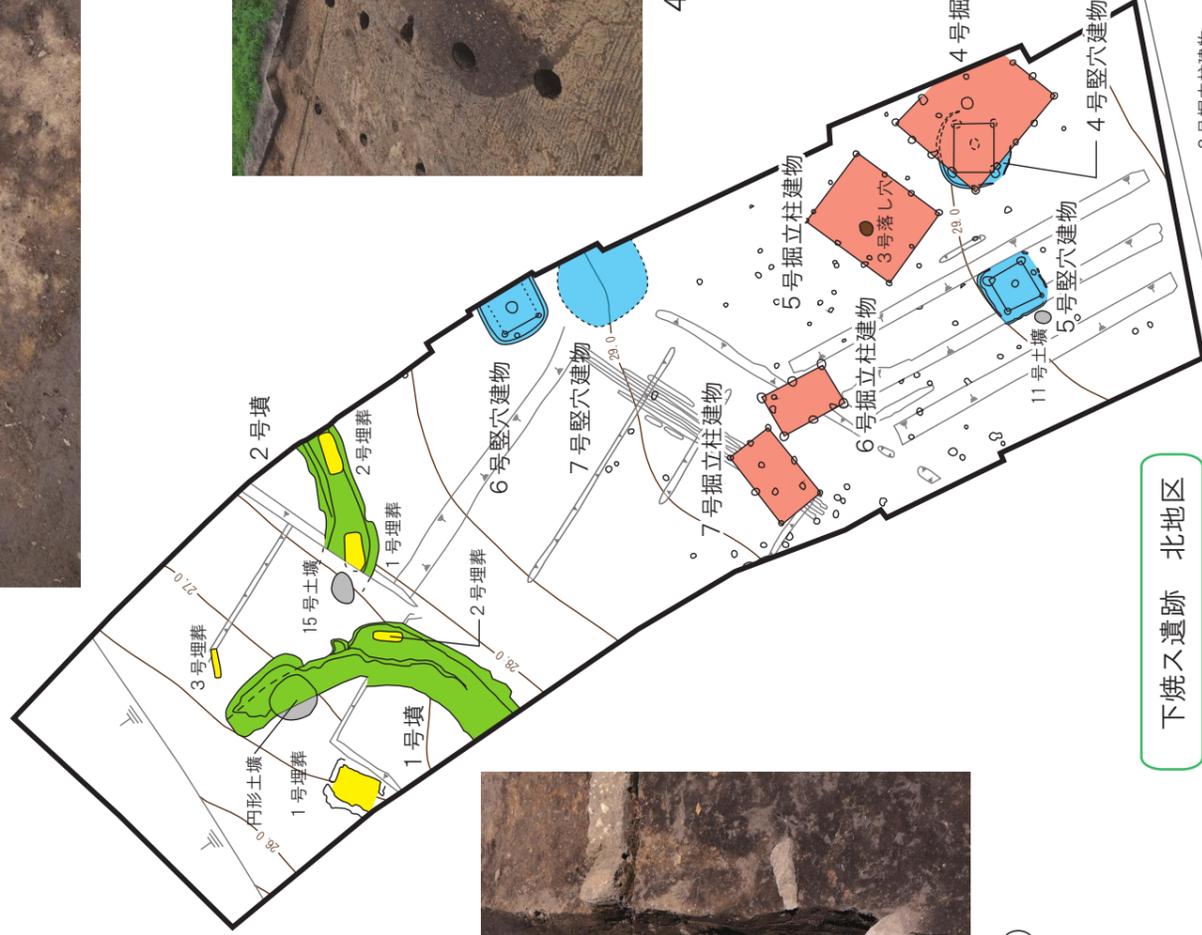
西焼入22号墳
周溝底 須恵器出土状況 (西から撮影)

下焼入遺跡の古墳について

- 1号墳
 - 形 : 円墳
 - 規模 : 直径約2.0m (復元)
 - 周溝幅 : 約3m
 - 主体部 : 横穴式石室
 - 周溝内埋葬施設 : 1基
- 2号墳
 - 形 : 円墳
 - 規模 : 不明
 - 周溝幅 : 約3m
 - 主体部 : 不明
 - 周溝内埋葬施設 : 3基



1号墳 (南東から撮影)



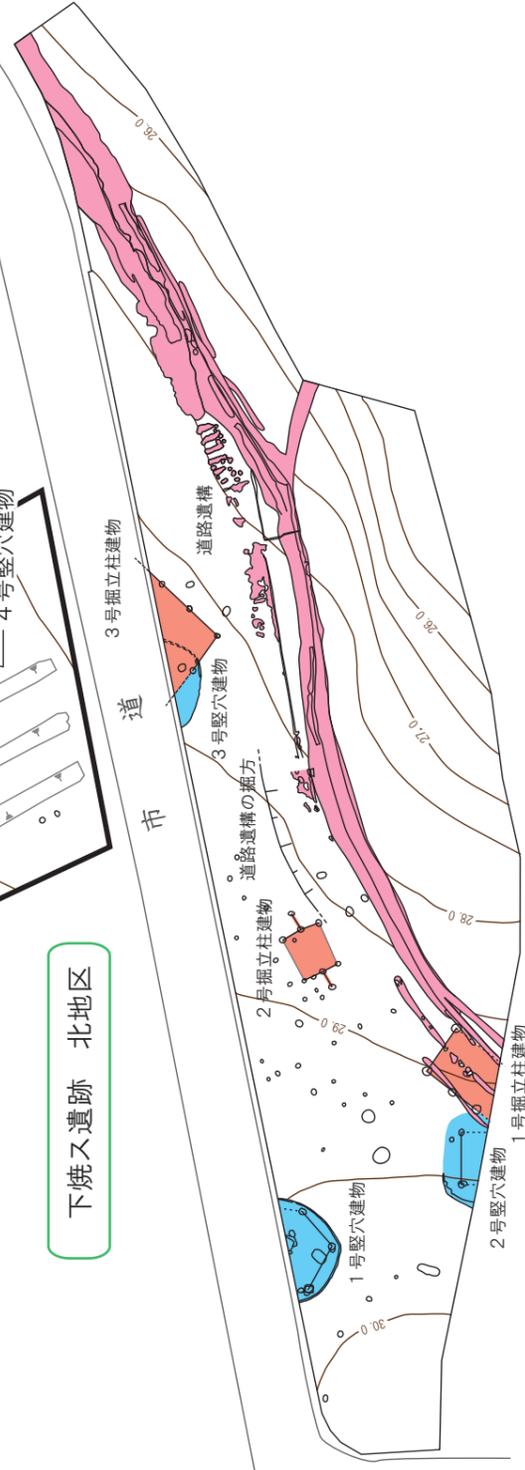
下焼入遺跡 北地区



1号墳 1号埋葬施設 石室 (南西から撮影)



4号掘立柱建物跡と4号竪穴建物跡
(南西から撮影)



清水谷尻1号墳

下焼入遺跡 南地区

